

## 第2回富山県環境審議会 環境基本計画小委員会 議事概要

1 日 時 令和4年1月31日（月） 午前10時～12時

2 場 所 富山県民会館401号室

### 3 出席者

委員等：楠井委員長、石黒委員、加賀谷委員、鍛冶委員、高橋委員、竹内委員、西川委員、林委員、谷内専門員、上坂調査員、尾畑調査員（欠席：亀山調査員）

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、楠井委員長以外の委員等はウェブ会議ツールにより出席

県 側：林生活環境文化部次長、中島参事・環境政策課長、中山環境保全課長、杉原カーボンニュートラル推進課長、牧野自然保護課長補佐 ほか

### 4 議事及び主な意見

#### （1）富山県環境基本計画の素案について

（委員等）有害鳥獣捕獲の担い手の確保の土台づくりとしての「自然とふれあう場と機会の確保」が大事であるが、従来の観察会だけではなかなか担い手の育成には繋がらない。釣りとか山菜採りとか、地域に根差した自然の恵みを持続的に利用する活動の情報などを盛り込んでほしい。

（事務局）昨今のコロナ禍で、密を避けるということで自然体験も見直されているので、地域に根差した自然体験活動の機会を増やしていきたいと考えている。記載について検討する。

（委員等）重点施策に記載されている施策の内容と富山県の再生可能エネルギービジョンの内容で整合性をとれるようにしてほしい。

（事務局）確認して、必要などところを見直す。

（委員等）「ウェルビーイング」について、環境については不自由さを感じても進めなければならないこともあり、環境の計画にはそぐわないのではないかと。

（事務局）私たちが生活していく上で、きれいな空気や豊かで清らかな水の保全・健全性の確保は、精神的・身体的にも満たされた状態、「ウェルビーイング」につながると考えており、ご理解いただきたい。

(委員等) 「施策の展開」の「脱炭素社会づくりの推進」のところで、本文に「脱炭素社会づくりを目指します」とあるが、「2050年カーボンニュートラルを目指します」と、しっかり記載してはどうか。

(事務局) 記載について検討する。

(委員等) 「ブルースカイ計画に基づき、安全で健康な大気環境を確保するとともに、快適な大気環境を創造するため、次の施策を推進します。」という部分について、「安全で健康な大気環境」という記載はつながりが不自然。

(事務局) ご意見を踏まえ、修正する。

(委員等) 「大気環境基準達成率」の指標のうち、二酸化硫黄については全国どこも100%達成しており、これを指標とするのは新鮮味が欠ける。光化学オキシダントに関してはまだ達成率が低いので、書きにくいというところはあると思うが、光化学オキシダントであったり、あるいはPM2.5であったりにできないか。

(事務局) 記載について検討する。この指標については現行のブルースカイ計画で挙げているものを踏襲している。この計画は来年度に改定を予定しており、その中で、例えばPM2.5や光化学オキシダントについて、富山県としてどうしていくかをしっかり議論したいと考えている。

(委員等) 2つ目の重点施策「エコライフの実践拡大とウェルビーイング（真の幸せの実現）」とあるが、ウェルビーイングは目指すべき抽象的な概念であり、3つの重点施策の全てがウェルビーイングに向かっていくものとする。この2つ目の重点施策にウェルビーイングという言葉は特別に含める必要はないのではないか。

(事務局) 趣旨としては、2つ目の重点施策に「豊かで快適な環境の実感」とあり、環境としてのウェルビーイングを考えたときに1番近いと思われた。記載について検討する。

(委員等) 温室効果ガス排出量の削減率の指標について、国の温室効果ガス排出量の目標が2030年度に46%減となっている中で、ここでは「30%減」という記載になっている。注釈はついているものの、こういう書き方だと産業界等をミスリードしてしまう可能性がある。

(事務局) 新とやま温暖化ストップ計画は来年度の改定を予定しているため、このような記載とした。記載について検討する。

(委員等) イタイイタイ病の記載について、病気の関連のことしか掲載されていない。神通川の農用地の復元のために40年近く苦勞して何百億円かけてきれいにしてきたこと、発生源対策により清流を取り戻していることなど、環境汚染を解消するための大変な辛苦に触れてほしい。

(事務局) 関係課と協議して記載したい。

(委員等) 重点施策について、第3章の「施策の展開」とかぶっているところがある。他の計画でもあるが、重点施策というよりも、今後10年の目指す姿、重点的に進める方向性、そういった類の表現にはできないか。

(事務局) 記載について検討する。

(委員等) 「ウェルビーイングが実現される社会」というのは、数値では測れない感覚的な目標となり、ハードルが高いのではないか。せいぜい「真の幸せを実感できる社会を目指します」というような表現の方が妥当ではないか。

(事務局) 記載について検討する。

(委員等) 「カーボンニュートラル」や「脱炭素社会」の実現を打ち出している中で、「サーキュラーエコノミー」のことだけを謳っていていいのか気になる。資源循環は大事だが、場合によってはエネルギーをかなりかけないと資源が循環しないことがある。カーボンニュートラルとの整合性が必要であり、ライフサイクルアセスメントをしながら資源循環の方法を考えていく視点が重要になると考える。

また、指標の「プラスチック製容器包装廃棄物の分別収集量」は、他の項目が令和12年の目標である中、令和6年の目標となっており、かつ現状より小さな値となっている。このような目標設定になっていることについて、説明があった方がよいのではないか。

## (2) 今後の進め方について

- 富山県環境基本計画の改定については、素案を修正し、委員に確認いただいた上でパブリックコメントを実施することとされた。